

公的医療機関等2025プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

名鉄病院
<p>【地域において今後担うべき役割】（P10,11）</p> <p>（1）増大する救急車需要に対する対応</p> <p>当院は2次救急医療機関であるが、救急車搬送台数は年々増えており平成27年度には近隣の3次救急医療機関に匹敵する水準となっている。これは当院の受入体制強化に加え、地域の高齢化進展による救急車需要が高まっているためと考えられる。したがって、当院はこれからもこの救急車需要に確実に対応できる急性期病院を目指す。</p> <p>（2）各疾病・各事業に対して既存の各診療科の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん <p>今後も低侵襲な治療の充実を図るとともに、中規模病院の機動力を生かし、初診時にCT・超音波・内視鏡を含めた検査を行って診断し、内科と外科が連携の上で迅速な治療を行うように努めていく。</p> ・脳卒中 <p>脳卒中地域連携診療計画を策定しており、近隣の医療機関及び施設と急性期・回復期・維持期・在宅療養における治療と必要な情報を連携・共有している。今後も地域連携バスを推進し、脳卒中患者に対して地域と連携しながら治療を行っていく。</p> ・糖尿病 <p>糖尿病関連疾患に対して、患者個別のオーダーメイド治療を目指しチーム（医師を含めた専門多職種）で診療にあたっている。今後は、働き盛り世代の糖尿病予防や、糖尿病とがんを含めた合併症診断・治療に積極的に取り組んでいく。また、超高齢化社会を見据え、当院認知症センターと連携し、高齢者糖尿病に対してもチームで取り組んでいく。</p> ・心筋梗塞 <p>心不全も含め、毎年5回以上開催している地域連携医との研究会を通じ、地域連携バスを進めていく。今後益々増加する高齢心不全患者の治療に対し地域と連携し対応する。</p> ・精神保健 <p>西区を中心に名古屋市北西部・清須市・北名古屋市・あま市にまたがる地域の認知症中核医療機関としての役割を担うため今後さらに以下の点を目標とする。認知症専門外来では、若年性認知症や高齢者の精神疾患への対応強化と治療から取り残されている軽度認知症患者対策をはじめ。地域医療では、これまで培ってきた医師会・地域包括・ケアマネ・薬局・訪問看護との認知症多職種連携をさらに進め、連携マップの作成やICTを利用した情報共有をすすめていきたい。院内認知症診療体制としては、認知症の嚥下・摂食機能障害、緩和ケアと認知症、認知症患者の意志決定支援なども多職種チームで対応できるようにDST機能をさらに高めたい。</p>

・救急医療

現在まで藤田保健衛生大学岩田教授の監修のもと研修医への症例検討会を実施しているほか、地域の消防隊とも定期的に症例検討会を開催するなど救急隊とも連携を図っている。今後も更に救急医療への対応力を強化し、地域の高齢化進展による救急車需要の高まりに対応していく。

・小児医療

小児科を有する急性期病院として身近な地域で診断、治療ができるよう、病病連携、病診連携を更に推進していく。また、名古屋市小児二次救急の輪番への参加回数を増やし、小児救急への対応も強化していく。

【今後持つべき病床機能】（P11）

2015年9月の新1号館の竣工にあわせ、病床数の削減（438床→373床）及び、一般病床の一部機能を転換（一般病床52床→HCU12床、地域包括ケア病床40床）したばかりであり、目標年次である2025年においても、**現機能を維持することとする**。

【今後の方針】（P13）

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	12床	→	12床
急性期	361床		361床
回復期	0床		0床
慢性期	0床		0床
(合計)	373床		373床

【その他の数値目標】（P14）

	現在 (平成29年3月末時点)		将来 (2025年度)
医療提供に関する項目			
病床稼働率	85.0%	→	90.0%
手術室稼働率	39.4%		41.7%
紹介率	41.9%		65.0%
逆紹介率	37.4%		40.0%
経営に関する項目			
人件費率	56.7%	→	53.0%
研究費率	0.24%		0.3%